

日本語の文における「と」と「とき」の意味の分析

存論

言語は人々とお互いにコミュニケーションをするためにある。言語は人々の生活のために重要である。言語がなかったら人々はコミュニケーションができない。言語の中に品詞がある。日本語にも品詞がある。品詞の中に助詞がある。Masuoka (1993:469)によると、名詞に接続して補足語や主題を作る働きをするもの、語と語、節と節を接続する働きをするもの等を一括して「助詞」と呼ぶ。助詞には色々ある。例えば「は」、「で」、「に」、「と」などである。この研究では「と」に着目する。

助詞は文の使い方によって、5つある。1) 格助詞 2) 提題助詞 3) 取り立て助詞 4) 接続助詞 5) 終助詞 である。「と」は接続助詞の中にある。Masuoka (2005:5)によると、語と語、節と節を接続する助詞を「接続助詞」と呼ぶ。

Etsuso, Atsushi, Masako (2000:158)によると、「と」は「A」と「B」の形で、Aが成立した場合、必然的にBが成立するという意味を表す。Bは現在形である。話す人の意志、依頼などを表す文はこない。接続助詞の「と」と「とき」は同じ意味を持つ。Sagawa (2002:323)によると、ときは状態を表す述語の辞書形を受けて、それと同時並行的に他の出来事や状態

が成立することを表す。

日本語の使用者にとって、「と」と「とき」の使い方と意味を勉強することが重要である。この研究では統語論と意味論による調査を行う。

統語論は文の構造から説明できる。意味論は文の意味から説明できる。

本論

日本語の文で「と」と「とき」は同じ意味を持つ。インドネシアの日本語学習者として、「と」と「とき」の使い方を間違える。

例えば：

1(a).本を読むと、分かりました。

‘*Hon wo yomu to, wakarimashita*’

‘**Ketika** membaca buku, (menjadi) mengerti’

1(b).本を読むとき、分かりました。

‘*Hon wo yomu toki, wakarimashita*’

‘**Ketika** membaca buku, (menjadi) mengerti’

インドネシア語で二つの文は「と」と「とき」が同じ意味を持つ。

「と」と「とき」は助詞の辞書形に付く。1(a)の文の意味は自発的なことを表す二つの文の中に正確な文は 1(a)の文である。二つの節は活動を表さないため、1(b)の文は間違いである。1(b)の文に二つの節は活動の文に置き換えた場合は、正確な文になる。例えば、「友達が来ました」というような場合である。

2(a). 疲れている**ときは**、本などを読んでみてください。

‘*Tsukarete iru toki wa, hon nado wo yonde mite kudasai*’

‘**Ketika** lelah, cobalah membaca atau yang sebagainya’

2(b). 疲れている**と**、本などを読んでみてください。

‘*Tsukarete iru to, hon nado wo yonde mite kudasai*’

‘**Ketika** lelah, cobalah membaca atau yang sebagainya’

インドネシア語で、「とき」と「と」は同じ意味を持つ。「とき」と

「と」は助詞の辞書形に付く。2(a)の文の意味はコントラストの状況を表す。話す人は疲れてないとき、その文を言う。二つの文の中に正確な文は2(a)の文である。「と」は「とき」の文に変わることができない。「ください」の意味は要請と依頼を表す。「と」は依頼を表す文は続かない。

3(a). 夜、寝る**ときは**、畳の上に布団を敷く。

‘*Yoru, neru toki wa, tatami no ue ni futon wo shiku*’

‘Malam, **ketika** (akan) tidur, di atas tikar diletakan futon’

3(b). 夜、寝る**と**、畳の上に布団を敷く。

‘*Yoru, neru to, tatami no ue ni futon wo shiku*’

‘Malam, **ketika** (akan) tidur, di atas tikar diletakan futon’

インドネシア語で「とき」と「と」の意味は同じである。「とき」

と「と」は助詞の辞書形を付く。3(a)の文の意味は二つのことが同時に起こる。二つの節は習慣的なことを表すから、「と」は「とき」の文に変わることができる。しかし、3(a)の文の意味は二つのことが同時に起こるを表す。3(b)の文の意味は習慣的なことを表す。だから、3(a)も3(b)も可能である。

結論

本研究結果から「と」と「とき」は同じ意味を持つことを確認した。

複文で、「と」と「とき」は節と節を接続する。「と」は習慣的なことを表すや必然的なことを表すや結果と原因の文に使われることを表す。「と」は動詞、形容詞の辞書形に付く。「と」は「とき」の文に使われることができる。しかし、「とき」は動詞（る・ない）、形容詞に付かなければならない。

「とき」の文の意味は習慣的なことを表す場合や必然的なことを表す場合、結果と原因の文を表す場合がある。「と」の前には話す人の意志、依頼などを表す文には続かない。

「とき」は二つのことが同時に起こり、話す人の経験の文とコントラストの状況の文に使われることを表す。「とき」は動詞（る・ない・た・たい）、形容詞、名詞に付く。「とき」は「と」の文に使われることができる。しかし、「と」は助詞（る・ない）の辞書形と形容詞に付かなければならない。二つの節の意味は活動や話す人の経験やコントラストの状況を表さなければならない。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	viii
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	9
1.3 Tujuan Penelitian	9
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Penelitian	9
1.4.1 Metode Penelitian	9
1.4.2 Teknik Penelitian	10
1.4.3 Teknik Kajian	10
1.5 Organisasi Penelitian	11
BAB II KAJIAN TEORI	13
2.1.1 Satuan Sintaksis	13
2.1 Teori Sintaksis	14
2.2 Teori Semantik	17
2.3 Teori 品詞(<i>Hinshi</i>)	19
2.4 Teori 助詞(<i>Joshi</i>)	20
2.4.1 Teori 接続助詞(<i>Setsuzokujoshi</i>)	22
2.5 Teori と ‘to’	23
2.6 Teori とき ‘toki’	26
BAB III ANALISIS PENGGUNAAN と ‘TO’ DAN とき ‘TOKI’ DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG	32
3.1 Verba (Kata Kerja) + と ‘to’	33
3.1.1 Verba Negatif + と ‘to’	47
3.1.2 Adjektifa (Kata Sifat) + と ‘to’	49
3.2 Verba (Kata Kerja) (Bentuk kamus る・た・ない・たい)+とき ‘toki’	53
3.2.1 Nomina (Kata Benda) +とき ‘toki’	61
3.2.1 Adjektifa (Kata Sifat)+ とき ‘toki’	63
BAB IV SIMPULAN	67
DAFTAR PUSTAKA	70
SINOPSIS	x

LAMPIRAN DATA I.....xiv
LAMPIRAN DATA IIxxiii
RIWAYAT HIDUP PENULISxxxiii

